



坂口さんから事前に発電所の説明を受ける。電力博物館に展示された燃料の石炭を前に、火力発電について説明を受ける高校生たち



三菱商事から説明を受けた後、10人はいよいよ発電所を見学。最初に、バンコクから約150km南のラヨーン県に移動し、電力会社「BLCPC」社が運営するマップラット火力発電所を訪れた。

同発電所は、タイで初めての本格的な大型石炭火力発電所であり、三菱商事が三菱重工業と共に

火力と太陽光で電力供給 環境負荷の低減にも貢献

同受注、建設した。出力11万7000kwの発電設備が2基ある。一行は、敷地内の電力博物館でタイの電力の歴史を学んだ。また、電力についての知識を深めながら学べるパズルなど体験型設備にも挑戦し、充実した時間を過ごした様子だった。



泰国三菱商事の古澤社長(左)と川合副社長(右)が解説。真剣な表情で学ぶ高校生たち

飛行機で約6時間半かけて首都バンコクに到着した10人は早速、市内のホテルで三菱商事の現地法人・泰国三菱商事の川合史彦副社長から、同社の事業展開について説明を受けた。

三菱商事は食料や衣料など生活に身近な分野の原料・素材調達のほか、化学や金属資源、環境など多様な事業を手がけている。中にはあまり一般には知られていない仕事もあり、高校生たちを驚かせた。

三菱商事が海外で展開するプロジェクト現場を高校生が訪問・取材しレポートする「海外プロジェクト探検隊」。第9回の今回は、日本各地から集まった高校生10人が7月30日から5日間、アジアの中で成長を続けているタイを訪れた。三菱商事がかかわっているエネルギー事業の中から、火力発電所2か所と世界有数の大規模太陽光発電所(メガソーラー)を見学し、タイの電力事情について知識を深めた。

高校生が見て触れた



第9回 タイ 発展支える電力事業



参加した高校生リポーター

- | | | |
|-------|---------------------------|-----------------------------|
| 前記左から | 宮裡 弘樹さん
(慶應義塾志木高等学校3年) | 住吉 瑞基さん
(青雲学園青雲高等学校1年) |
| | 室賀 元伸さん
(桐光学園高等学校2年) | 岩井 俊樹さん
(早稲田大学高等学院2年) |
| | 毛利 遥さん
(青森県立青森南高等学校2年) | 樋口 陸矢さん
(湘南学院高等学校1年) |
| | 若松 恵加さん
(横浜雙葉高等学校2年) | 板垣 華蓮さん
(京都産業大学附属高等学校1年) |
| | 岩間 優さん
(桜蔭高等学校3年) | 宗田 千奈さん
(富山県立立高岡高等学校2年) |
- 以上のメンバーが多数の応募者から選ばれました

さんは「英語で説明を聞くのは難しかったけど、海にも空にも配電した発電所だと分かった」と話し、桐光学園高校2年の室賀元伸さんも「火力発電所はとにかく二酸化炭素(CO2)を出す汚いイメージだったが、見る目が変わった」と目を輝かせていた。

今回のツアーで最も高校生たちの関心を集めたのが、タイ中部の古都ロブプリーにあるメガソーラーだ。

タイは10年後までに、電力の約2割を太陽光発電などの再生可能エネルギーでまかなう目標を掲げている。同発電所はその一環で、三菱商事の子会社「DGA」がタイや香港の企業と主導して建設した。出力は7万3000kwで、来春の完成を目指して、さらに約0.9万kwの増設工事も進行中だ。

高校生たちは、敷き詰められた太陽光パネルを一望できるタ

じつくりと見学。火力発電設備の規模の大きさに圧倒された様子で、青森県立青森南高校2年の毛利遥さんは「火力の熱気がすごかった。化石燃料を燃やすので二酸化炭素が出るとは思うが、複合火力にすることで効率よく発電し、環境への負荷を軽減している。水の再利用など様々な工夫がなされ、環境に真剣に向き合っていると感じた」と感心していた。

ワリーに上って2000畝の敷地の広さを実感した後、ワゴン車で分譲した発電所を一周。途中、案内役を務めたDGAの井上将平さんとシャープの吉見直輝さんに、発電効率や、太陽光発電



発電所内を見学する高校生たち。規模の大きさに圧倒された様子だった

のメリットとデメリットなどを尋ねていた。日本では福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、再生可能エネルギーへの期待が高まっている。桜蔭高校3年の岩間優さんは「再生可能エネルギーの将来の可能性を体感できた。日本に帰っても、電力や発電について他人事ではなく自分のこととして考えたい」と話していた。

メガソーラーの見学を最も楽しみにしていたという湘南学院高校1年の樋口陸矢さんは「タイでは豊富な自然資源を利用した発電方法を考えている。すごいと感じた」と驚いていた。

別れ際には、タイの生徒たちが校庭で高校生たちを囲むように円陣を組み、「友達の証し」を意味する伝統的なエールを送った。

富山県立立高岡高校2年の宗田千奈さんは「校内に歴史を学べる博物館があり、タイの生徒は

英語で現地学生と交流 伝統のエールは「友の証し」

とも自国について考えていると思った」と感銘を受けていた。京都産業大学附属高校1年の板垣華蓮さんも「コミュニケーションが取れるか不安だったが、英語で何とか意味が通じたときはうれしかった」と笑顔で話していた。

タイの生徒(写真左)が語る同校の歴史に耳を傾ける。互いにこづき打ち掛け、博物館のあちこちで笑い声が響いていた。お別れの円陣に囲まれる高校生たち。笑顔で「ありがとう」。



① 広大な土地に広がるメガソーラー ② ゴーグルとヘルメット姿で見学(右から2人目はDGAの井上さん)

海外プロジェクト探検隊

三菱商事の海外事業や現地の文化を体験

■「海外プロジェクト探検隊」とは

このプロジェクトは、一般から公募した高校生をリポーターとして海外に派遣し、現地で体験した内容をヨミウリ・オンラインで発表してもらうシリーズ企画。今回の「タイエネルギープロジェクト」は9回目となる。現地では、三菱商事が展開しているプロジェクトの現場を訪問するほか、現地の学生との国際交流や生活文化など、さまざまなプログラムを体験。未来の日本を担う高校生たちに、総合商社の仕事や異文化への理解を促し、今後社会で活躍するための糧となることを目指している。

■体験ツアー報告会

10月20日、第9回タイ体験ツアーの報告会が開催された。三菱商事の廣田康人執行役員によるあいさつの後、高校生たちは体験したプログラムをレポートし、タイで展開する三菱商事のプロジェクトを中心に、現地で学んだことや感じたことなどを発表しあった。写真。その後の懇親会では、三菱商事社員と高校生たちが交流。打ち解けた雰囲気の中、ツアーの思い出や発表したりレポートの感想などを語り合った。



▲生徒と懇談する廣田康人執行役員(写真左)

WEB 高校生のレポートは、公式サイトで公開中 / <http://www.tanken-tai.jp>

TV BS日テレで特別番組を放送 / 11月18日15:30~